

会計学を武器にして 社会を生き抜く力を

島田 康人 教授

Prof. Shimada Yasubito

企業と会計

3年次前期配当科目 / 専門部門(経済・経営科目群)

企業会計の基本や簿記の基礎知識を学ぶ

— この「企業と会計」という講義について教えてください。

企業会計の役割には大きく2つあります。ひとつ目は「企業の利害関係者に対する企業業績の開示」、ふたつ目は「企業経営を支援するための会計情報の測定」です。

この「企業の会計」は、お金や利益の重要性を理解しながら、会計学を中心に会計について学び、**ビジネスマンの素養として大切な、会計の基礎と簿記の理解**を目的とした講義です。

会計の基礎的な原則からはじまり、企業会計の役割についての理解、簿記の基礎知識や手続き、決算書の読み方・考え方などを実践的に学び進めます。さらに、近年重要性が高まっているキャッシュフロー会計にも触れていきます。グローバル化の影響で、日本でも国際的な会計基準が採用され、関連法律や金融分野が変化しつつあります。直近の経済情勢や法律の要素も取り入れながら、日本の会計制度の変化や国際的な動向について解説します。時には、企業の不祥事や会計関連の時事問題もあわせて紹介しています。これは、単なる「計算」にとどまらず、**会計学の本質や意義を理解し実践的な学びをした学生たちが、社会に出て遭遇するあらゆる場面で役立つ知識を持って欲しい**と考えるからです。

会計学の本質を理解し、将来に活かしてほしい

— 講義で大切にしていることはどのようなことですか。

講義では、産業の発展と共に進化してきた会計学の歴史にも積極的に触れています。そうした歴史的背景から会計の発展を理解することで、**会計学の本質を掴み、お金の流れを評価する方法、経済価値の測定について自ら考える力**がつくと思います。

— 学生には、どんな知識や教養を身につけてほしいですか。

都市情報学部は文理融合の学部で、文系の学生も多いため、この講義でも「計算が難しい」「理解できない」と、簿記に対する苦手意識や先入観を持っている学生も確かに多いです。しかし、**企業会計は社会に出たときに役に立つ、とても重要な知識・教養**です。今はまだ、なかなか実感が得られないかもしれませんが、社会人になって何かにつまづいたとき、「あの考え方が使えるかも」と思い出し、そこから調べ直すことで答えに行き着くかもしれません。会計は単なるお金の計算ではなく、社会をよくしていくための一つの武器です。会計学に限らず、**今学んでいることが何のためになるのか、その背景にある理由や本質を理解しながら、どの学問も意欲的に学びを深めてほしい**と思っています。



財務会計・入門

桜井 久勝・須田 一幸 著 (有斐閣)



財務会計の入門書で、長く読まれ続けている一冊です。企業の活動に焦点を当てて、財務諸表の作成プロセスをわかりやすく解説しています。多少の基礎知識は必要ですが、言語化が秀逸で理解しやすいので、「企業と会計」の講義を受けて、さらに会計学について理解を深めたい学生におすすめです。

学生におすすめの一冊

学生の声 /

先生はとても丁寧に優しく、会計の仕組みを理解することの大切さを教えてくださいました。高3で取得した簿記3級は形だけで覚えてしまっているので、知識の理解度が低かったのが悩みでした。この講義で基礎や仕組み、会計の本質を理解できたので、応用問題も得意になりました。簿記や会計は今後必要な知識なので、自分の武器にしていきたいです。

杉本 快舟さん(3年生)

